

区の評価及び意見(区役所地域担当)

【此花区】 (受託者:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

I 年度末評価

取組実績の評価(1)

項目		ア 地域への支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
事業の実施状況	自律的運営に向けた地域活動協議会の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動の情報発信について、参加が促進されたところは評価できる。また、これまで広報紙を発行していなかった6地域において、新たな担い手とのマッチングなど地域実情に沿った支援により今年度発行できた事に対しては評価できる。</li> <li>・ネットワークづくりとファシリテーション手法の導入によって魅力的な取組が実施された事は評価できる。</li> <li>・「コノまち」インタビューは、参加者アンケートでは反映されない参加者の生の声を聞く機会としてインタビュー形式でニーズ把握する手法であり、大いに期待できる。</li> <li>・広告収入等先進地域の自主財源確保に向けた情報提供により、桜島地域の広報紙広告による自主財源獲得にも広がった。また、自主財源獲得に向けて民間の各種助成金リストを地域に提供するなど適切な支援ができています。</li> <li>・「コノハナノハナシ」では、講演内容を都度工夫し、新たな担い手でも興味を持ってもらいやすい内容となっており、グルーブトークの場でも活発な意見交換がなされていた。また「合同フォーラム」についても期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報や担い手確保・イベントの活性化などへの支援が有効に働いている地域もある。</li> <li>・自主財源の確保に向けた情報提供については、自主的な組織運営に有効である。</li> <li>・「コノまちインタビュー」や「コノハナのハナシ」などの独自の取組は、有効との評価は妥当である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実情に合う課題分析がされ、必要な改善策が示されており、地域事情に合わせた支援を今後も行うことができる。</li> </ul>
	(1)「地域課題への取組」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コノハナのハナシ」では、広報を通じた新たな人材発掘の機会の提供や、四貫島地域での防災コーナーを通じて人材発掘の手法を支援するなど、地域での実践を通じた人材育成事業の支援などは評価できる。</li> <li>・梅香地域の「梅香さくらまつり」において、新しい担い手が参画していることは、先進的な事例の1つとなっており、中間支援組織が地域・企業/NPO等のマッチングを行い、地域の活性化、世代間の繋がりを作った事は大いに評価できる。</li> <li>・地域ではまだまだ紙での情報が有効であるが、新しい参加者への情報提供のために、地域でのWEBの取り組み支援やまちづくりセンターによる迅速なフェイスブックへの動画掲載等の活用は評価できる。また、梅香地域での「もちつき大会&amp;防災訓練」ではNPOとのマッチングによって参加者層の拡大ができた事は評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い担い手が企画・運営に携わることによって、若年層の参加につながったことや、PTAが入ることにより学校と地域との親密な関係を築いた事例などは、各団体とも役員の高齢化が進む中で、比較的若い世代が地域活動へ参画するきっかけとなっており、各地活協でも応用できるので、有効との評価は妥当である。</li> <li>・中間支援組織によるフェイスブックでの情報発信は、地域での広報活動が弱い地域もある中、新たな参加者への情報提供として有効との評価は妥当である。</li> <li>・もちつき大会&amp;防災訓練においてNPOの専門性が発揮され地域とのつながりが確立されたという評価については妥当である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実情に合う課題分析と必要な改善策が提示されている。</li> <li>・広報・人材育成・新たな担い手・活動団体とのマッチングなど地域にとって喫緊の課題であるので、十分な支援を期待する。</li> </ul>
	(2)「つながりの拡充」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営支援や事業報告・決算・監査については、きめ細かい支援を行い、順調に運営されていることは、評価できる。</li> <li>・中間決算による事業の振り返りやそれに基づいた新年度事業計画への支援については評価できる。また、「会計の達人」勉強会の開催や会計Excelソフトを作成して誰でも決算報告書が作成できるように工夫された事は大いに評価できる。</li> <li>・地域への広報誌発行に向けた支援については、フォーマット等の提供など有効な支援ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織運営について、支援が有効に実施されている。</li> <li>・運営支援や会計処理に電子媒体の活用を拡大させることにより、事務処理の軽減につながってきていることは評価できる。</li> <li>・中間決算への支援においては、下半期事業の見直しのみならず、次年度への計画等につながるものになっているという評価は妥当である。</li> <li>・広報誌の発行におおいては、地域の実情・予算に応じて適切な支援によって発行することができたという評価は妥当である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実情に合う課題分析と必要な改善策が提示されている。</li> </ul>
	(3)「組織運営」にかかる支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「区独自取組」にかかる支援の実施状況</li> </ul>		

取組実績の評価(2)

項目		ア 地域への支援実績に対する評価	イ 支援の有効性に対する評価	ウ 課題分析と改善策等に対する評価
事業の実施体制	(1) 自由提案による地域支援の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人だけでなく子どもも参加できる体験型の避難所一泊訓練の実施や子どもでも理解しやすいゲーム性のある教材の導入といった新しい手法を駆使して地域の自主防災力の向上を支援していることは大いに評価できる。</li> <li>来年度計画策定において防災の取り組みを具体化するために区役所防災担当と連携して自主防災力向上のための支援ができていたところは大いに評価できる。</li> <li>此花区では、防災を重視していることから防災の見識の深いスーパーバイザーを活用している点についても評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若い子育て世代の防災訓練・学習会参加へのきっかけづくりや、子どもたちに防災意識を持たせるうえで、支援は有効である。</li> <li>地域事情にあった防災取組につなげることできた支援は有効である。</li> <li>スーパーバイザーの活用は有効である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、体験型防災学習会の取組を実現化していくという改善策は妥当である。</li> </ul>
	(2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	体制については、地活協運営委員への支援など十分に機能している。	地域からの相談や問い合わせに適切に対応できており、体制に問題ない。スーパーバイザーの効果的な活用ができています。	—
	(2-2) フォロー(バックアップ)体制等	補助員の欠員時についても適切な対応が行われた。	フォロー体制については問題ない。	—
	(3) 区との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の情報共有及び適宜会議が行えている。</li> <li>会計勉強会開催や運営委員会・防災の取組等でも連携できている。</li> </ul>	連携が図られている。	—

取組効果の評価

項目		ア 取組効果に対する評価	イ 問題点の要因分析に対する評価	ウ 今後の改善策等に対する評価
目標等の達成状況	(1) アンケート調査 ・適切であると感じている: 60%以上 ・自律的な地域運営に取り組んでいる: 50%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が活動に役立ったとの回答が、中間評価から14%上回り95.9%が支援が役立ったと回答したことは、中間支援組織が適切な支援ができていた結果と考える。特に広報に対する支援が48.2%から75%に増加したことにより、広報紙の発行につなげることができた。</li> <li>・アンケート結果から見て、中間支援組織の役割としては十分機能していると考えられる。</li> </ul>	受託者の要因分析は適切である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手の拡大は重要であり、支援の継続は必要であり評価できる。</li> </ul>
	(2-1) 「地域課題への取組」達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域では課題やニーズについてある程度把握できている。中間決算時や来年度事業計画策定時に地域で課題に対して効果的な支援が実施できる事を望む。</li> <li>・補助金の配分については、運営委員会での話し合いにより適切に活用されている。</li> </ul>	受託者の要因分析は適切である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の改善策については、必要な改善が記載され、評価できる。</li> </ul>
	(2-2) 「つながりの拡充」の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会には様々な団体が加入されており、団体間での連携も少しずつ進んでいる。</li> <li>・中間支援組織が開催したワークショップや井戸端会議「コノハナのハナシ」等の効果もあり、地域外の意見交換も進んでいる。</li> </ul>	受託者の要因分析は適切である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の改善策については、必要な改善が記載され、評価できる。</li> <li>・校区をまたぐ地活協の問題は、特に区としても意識しているところであり、さらなる支援を期待する。</li> </ul>
	(2-3) 「組織運営」の達成状況	ステージ1について全地域で達成されている。	受託者の要因分析は適切である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の改善策については、必要な改善が記載され、評価できる。</li> </ul>
	(2-4) 「区独自取組」の達成状況			
	(3) その他の効果のあった内容	防災については区の重要な取組であり、区担当者と地域との意見交換の場づくりや効果的な取組の情報提供・地域事情に沿った計画の具体化などの支援は大いに評価できる。今後も継続的な支援を期待する。	受託者の要因分析は適切である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の取り組みは評価できる。</li> </ul>

全体的な評価

全体的な評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織運営・会計処理については、丁寧な支援と会計ソフトの開発などで地域の理解も深まり、自律的な運営に近づけることができたことは評価できる。</li> <li>・地域事情を精通することで、それぞれの事情に合った支援を実施することができていた。</li> <li>・地域との信頼関係が構築されており、今後の支援に期待できる。</li> <li>・区として重点的に取り組みたい防災や広報について、具体化するための支援もできており、地域の実情にあった自主財源の獲得情報などが提供されている。</li> </ul>
--------	---